

基調講演

# 開かれた議会と住民参加

## 1月31日、議会改革フォーラムを開催

民主主義とは、公開の場で議論を尽くして物事を決めていくものだ。理念としてはよく聞く言葉ですが、現実には実現できない常識が定着し、住民参加型の議会になっていません。

こうした中、議会改革が動き始め、全国で住民を巻き込んだ議論がなされ「住民参加型の開かれた議会」が伸展しています。時代のニーズに合わせた議会に変えていくため、議員だけでなく、町民の皆さんにも問いかけようと、このたびのフォーラムを開催しました。

### 開かれた議会と住民参加

今日のフォーラムで、これから議会がこういうことをやったらさらにいいのかなというのを、いくつかのよその事例を紹介しながら、町民の皆さま、近隣の議会からお見えになった皆さまと一緒に考えてみたいと思います。

岩手県の葛巻町では、TPPの問題を政権はどう考えて

いるのかということ、地元国会議員を議会の本会議に呼んで聞いています。町民が関心があっても、国政のことは町長ではわかりませんから、議会の正式な会議の場で意見をきちんと言いたい。ということも考えていただきたい。

山形県の小国町では、地元高校の生徒会長が町長に、生徒会役員が課長になり、生徒会が調査や研究をして、本会議場で生徒会長が施政方針演説をして、議員が質問するという催しが行われました。普通はこの逆をやっています。高校を卒業するといなくなってしまう子たちが、しばらくの間でも町のことを調べて議会議員と語り合ったとき、それが実現するとか、少なくとも自分たちの意見を聞いてくれて、それがちよつとでも実現しそうなが見えた

ら帰って来なくなるのではないでしょうか。議会がこうやって若い人の意見を聞いて、少しでも聞き取った意見を実現していこうという考えを持って一生懸命やる、それが今日のテーマ「開かれた議会と住民参加」ということだと思います。

埼玉県の三郷市では、地元いろいろな学校に情報を提供して、子どもたちにこの町をこれからどうしたらいいか政策を考えてもらい、審査委員を付けて審査し、表彰しています。こういう形で町のことをしっかりと勉強して、君たちはどういうことがあればこの町に住むか、どんな仕事をしたいかということを書いていくことをしなければ、地域に対する愛着だとか地域に住み続けようという気持ちは起こりません。

### 講師

新潟県立大学国際地域学部

准教授 田口 一博 氏



昭和37年生まれ。東京農大卒、放送大学大学院修了。横須賀市職員、公財・地方自治総合研究所常任研究員を経て平成22年から現職。

東京大学大学院、明治大学等の講師を兼ねる。専攻・議学会、行政学、政策学。

# 「議会が変わる 町民が変わる」



## 住民にとって 見える議会とは

こういう仕掛けを議会がしっかりやっていくべきです。議会は会議をするだけではありません。例えば農業政策について、農業関係者に何をやってもらいたいのかと聞いていますか。議会には公聴会という制度があります。公聴会は予算のときや重要な案件のときは、議員じゃない人の意見を聞くための制度です。地方自治法には、そういう話は議員だけで考える必要はないか

ら、町の中の利害関係者の意見を聞きなさいと書いてあります。しかし、今まで全国のほとんどの議会ですれはやってきませんでした。せっかく今日こうやって町民の方々と議員の皆さまが聞く側に回って、フォーラムを開くという先進的な取り組みをなされたわけですから、ぜひ、子どもたち、町の専門家、場合によっては私のような人間の声も聞いていただきたい。外から見たときにそうなのか、そういうことも考えられるのか、これがまず住民にとって見える議会ということではないでしょうか。

## 議会が変わる 町民が変わる

ここ数年、いろいろなところで議員以外の人が議会に参加する、住民の声を直接聞くという試みが行われるようになりまし。よく行われるのは、公開の場でいろいろな意見を聞く今日のシンポジウムのような形です。それも議会主催で行われるようになりました。そして、聞き取った町民の声を議会の中でもんでいます。

議会は一人の住民の意見を聞くことも必要ですし、多数の人の意見の中からどれを取るべきかと議論することも必要です。しかし、場合によっては町民のほとんどがこうだと言っているけれども、いや違うということも決断しなければならぬのが議会です。町民から聞き取った意見を、どうすべきか考えて決めるのが議会です。町長がどう思われるかわかりませんが、少なくとも過半数、できれば議員全員が納得して、町長、これやれよと肩を押されて初めて町長が動くという仕組みでないと本来はおかしいのであります。そうしたことも、町民が議会と語るという場を積み重ねていくことで実現に近づいていきます。せっかく今日、この場に立ち見が出るぐらいの人がお集まりなわけですから、ぜひ、こういう機会をどんどん広げていただきたいと思えます。

また、普段から議場で参考人とか、あるいは公聴会という自治法の制度にのっとって正規の会議を開いてみる。その場で町長や執行機関の職員と一緒に話を聞いてみて、町

## 「開かれた」後の 議会の役割

長、来年の農業予算こう言っているけど、農協の青年部が違うと言っている、どうなんだという話になると、今までの議論の質とはだいぶ変わってくるのではないかと思います。最後に、議会が、開かれた議会になったときどうするかということをお話したいと思います。最初にやってほしいのは、町の良い情報を議会から発信してほしいです。津別の良い情報が町外に出ていません。

津別町にはおいしい水や空気があります。食べ物もあります。いろいろな事業者が良いいものを作っています。津別の良い情報が出て行ったら最後に議会は選挙の投票に来ない人、来れない人、町外の人々の意見を一生懸命聞いてください。情報を発信することで町がブランド化し、若い人たちが津別に誇りや自信を持てば、ここに住みたいな、仕事をしたいなと考えてくれるのではないのでしょうか。議会がそんな情報発信の場となれば良いと思います。